

議員特権 **高橋の公約**
「費用弁償」廃止へ一歩前進！
 費用弁償は、交通費に相当する制度で、1回の議会参加で3千円～5千円が市会議員に支給されます。昨年の11月議会に費用弁償の廃止を求める陳情が出され、つなぐ会派は賛成しました。しかし、自民党・公明党・立憲民主党などの反対で採択されませんでした。ところがその後メディアで大きく取り上げられ、議会内で審議が進み、9月6日に費用弁償を交通費の実費支給に変える条例改正が決まりました。高橋はもともと費用弁償の廃止を求めて受け取りを拒否していましたが、今後は請求自体が任意となるので、請求しません。

塩屋で検討が進む オンデマンド型タクシー
 垂水区塩屋地区では、2017年から地域住民がタクシー事業者と協力して北部地区と塩屋駅をつなぐ「しおかぜ」を運行してきました。昨年度にできた「神戸市地域コミュニティ交通支援制度」の支援も受けています。坂の傾斜が20度を超える塩屋8丁目地区ではさらに、住民が乗り合いすることで通常のタクシーよりも安い料金で駅や北部地区に行ける「しおかぜデマンド便」の導入に向け、アンケート調査が始まっています。地元の望海台自治会に神戸市都市局が協力するこの取り組みが、買い物や通院などの問題解決につながることを期待しています。

- 活動日誌 (2021年7月～9月・抄)**
- 7/06 神戸市精神保健福祉センターに依存症対策を聞く
 - 7/10 神戸さんねっと(子どもの居場所づくり)に参加
 - 7/12 兵庫土建労組垂水支部幹事会に参加
 - 7/20 神戸ユニバーサルツーリズムセンターを訪問(写真①)
 - 7/24 市政カフェ(オンライン)「兵庫県知事選挙の感想」
 - 7/25 つなぐ神戸市議団市政報告会(六甲道駅前)(写真②③)
 - 8/09 生活保護問題全国地方議員研修(オンライン)に参加
 - 8/18 塩屋まちづくり推進会勉強会に参加
 - 8/21 全港湾山陽バス分会定期大会に参加(写真④)
 - 8/28 全国政策研究集会2021in神戸(オンライン)
 - 8/28 市政カフェ(オンライン)「コロナ第5波対策」
 - 8/31 9月議会開会 コロナ補正予算案質疑
 - 9/08 コープ自然派と学校給食会との懇談に同席
 - 9/11 西区伊川谷の鶴田農場を訪問(写真⑤)
 - 9/22 兵庫視覚障害者の生活と権利を守る会と懇談
 - 9/25 市政カフェ(オンライン)「助産師さんと考える性」
 - 9/27 神戸市子ども若者ケアラー対策室を訪問
 - 9/28 ギャンブル依存症家族会と精神保健福祉センターの懇談に同席



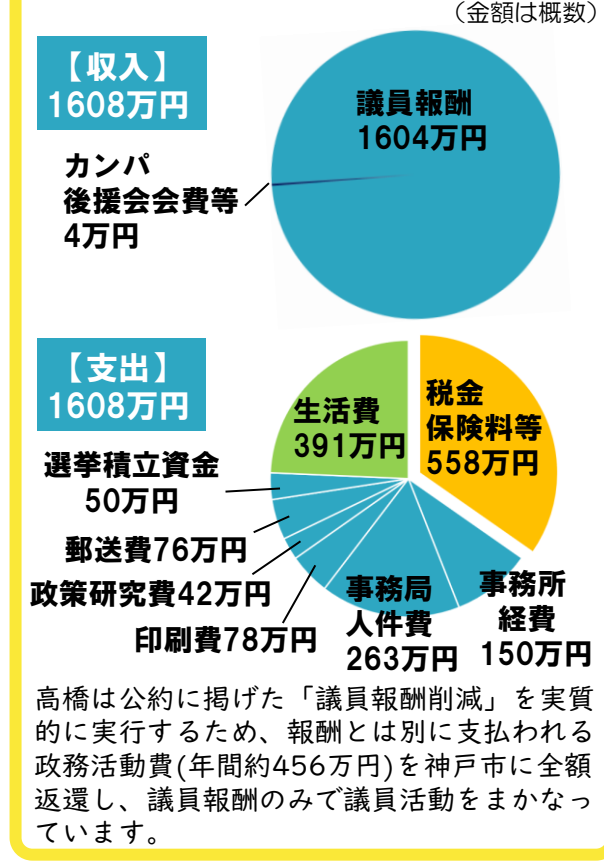
高橋ひでのり プロフィール

- 1957年生まれ。●1984年京都大学卒業後、神戸市に就職。生活保護ケースワーカーとして勤務。●1995年阪神淡路大震災時、避難者の生活保護受給に奮闘。垂水区役所等で国保・年金業務を担当。
- 勤務と並行し平和・脱原発・差別撤廃などの市民運動に参加。
- 2011年 精神保健福祉士の資格取得、精神障害者の成年後見ボランティア参加。
- 2017年3月59歳で退職。
- 2019年4月神戸市会議員選挙(垂水区)に立候補し4162票で初当選。
- つなぐ神戸市会議員団の政調会長。福祉環境委員会/外郭団体に関する特別委員会委員。
- 趣味：ゴスペル・登山

ポスター掲示先募集中
 政治活動ポスターを2種作成しました。家の壁、扉などへの掲示をさせていただける方は当会までご連絡を。

みんなの声が届く市政、垂水から高橋ひでのり(神戸市会議員(垂水区))
 豊かな里山を未来につなごう！
 神戸市会議員(垂水区) 高橋ひでのり
 くらしい子育て・まちづくり 緑のりごもをお聞かせください。
 連絡先(070-7489-6715)

高橋ひでのり 直近1年の会計報告 (2020年10月1日～2021年9月30日)
 (金額は概数)



つなぐ神戸市会議員団 **市民の風** No.17 高橋ひでのりと市政を考える会 ニュース 2021年 秋号

神戸市2020年度決算議会報告

神戸市の2020年度決算を審議する決算議会が8月31日から10月8日まで開催されました。つなぐ神戸市会議員団は、総括質疑をあわはら市議、代表質疑を小林市議が行い、高橋はコロナ対策補正予算について質疑しました。



第4波の教訓は第5波に活かされたか？ コロナ対策補正予算を質疑

8月31日の市会本会議(右写真)で高橋は、①自宅・宿泊療養の死者を出さない決意、②早期に医師の診察を受ける体制、③家庭内感染を防ぐために宿泊療養施設の拡充を求めました。今年3月～6月の第4波では、神戸市内で自宅療養者5名、宿泊療養者1名を含む374名の方が亡くなっています。第3波までの累計200名の約2倍です。7月からの第5波ではその数を減らし、とくに自宅や宿泊療養者の死者を出さないことが求められていたのです。

久元市長は「第4波の悲劇を繰り返さない」と明言し、10月10日時点では第5波の死者が37名ですが自宅・宿泊療養者の死者は出ていません。早期に医師の診察を受ける体制については「保健所が送迎してコロナ対応病院の診察と検査を受ける体制を1日15件程度確保した」とのことでしたので、その拡充を求めました。宿泊療養施設については「軽症者を入所させる」という答弁でしたが、家庭内感染を防ぐために無症状者もできるだけ入所させることを求め「家庭内感染を防げない場合は無症状でも施設に入らせていただく」という答弁を引き出しました。

また、つなぐ会派の小林市議は総括質疑で「コロナ感染症後遺症者の相談窓口の設置、実態調査、公費負担制度の創設」を求めました。その時は「全国的なテーマなので国に要望する」との答弁でしたが直後に健康局は「後遺症相談ダイヤルを設置し、第4波の感染者から5千人を抽出して実態調査を行う」と発表しました。

コロナ禍でも三宮再整備を見直さない神戸市 つなぐ神戸市会議員団、16件の決算議案のうち7件に反対



最終的に、つなぐ神戸市会議員団としては16件の決算のうち一般会計など7件の決算議案に反対しました。理由は①今後5年間で累積赤字が436億円も見込まれるのに、経済波及効果が不透明な三宮再整備(市負担1570億円)を見直そうとしない、②重要施策の決定過程が不透明で市長の上意下達が多く現場が混乱している、③新長田再開発失敗の検証が不十分、④水道料金関係業務や区役所業務の一部民間委託によって住民サービスが低下する、⑤国民健康保険料軽減のための一般会計の繰入がない、⑥福祉パス改悪、⑦須磨多間線の住民合意を無視などです。しかし賛成する議員が過半数を超えたため、決算議案は承認されました。

くらし対策 医療給付費が減った分を国保料の引き下げにまわせ

高橋は10月1日の福祉環境委員会で福祉局に対し「2020年度はコロナ禍による受診控えで国民健康保険の給付費が3%減った。給付費が減った分で保険料を安くするよう兵庫県に要望を」と要求しました。しかし当局は「兵庫県は将来の財政危機に備えた基金に回すと思う」と兵庫県への要望を拒否。「被保険者(市民)が節約した分はすぐに保険料を安くするために使うべき」と重ねて要求しました。

お知らせ：2022年1/9(日)14時～16時 レバンテ垂水多目的ホールにて高橋ひでのりサポーター集会開催